

2019 年度日吉津村地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本地域においては、農作業及び用排水管理の効率化、作物の団地化を図る観点から、地域内の水田（約 120ha）を 60 ほどのブロックに区分して、各年の主食用米の生産数量目標に応じたブロックローテーション方式による生産調整（転作）を行っている。転作ブロックでは、大豆のほかに、飼料用米、白ねぎ、ブロッコリー等の作付品目を指定し、作業の効率化、生産性の向上を推進している。

本地域における水田の土壌は、砂壤土が主で、地力の低いほ場が多いうえ、小区画で、作業効率が悪く、コスト低減、農地集積は容易ではないが、排水対策や団地化の推進により、さらなる生産性の向上を図るとともに、現在のブロックローテーションに品目を限定した固定ブロックの導入や農地中間管理事業を活用した担い手への農地集積等、新たな取組を検討する必要がある。

2 作物ごとの取組方針等

（1）主食用米

鳥取西部農業協同組合で奨励している中生品種で食味の良い「きぬむすめ」の作付が拡大し、「コシヒカリ」等の早生品種を上回っているが、さらに需要に応じた品種構成に配慮しつつ、収穫作業に支障が出ないように、水系を考慮した品種ごとの団地化を推進していく。

（2）非主食用米（飼料用米）

平成 23 年産以降、担い手が湿田地帯を中心に、知事特認の多収品種の作付を行っているところであり、引き続き、団地化による作付を継続するとともに、より収量が見込める品種への転換も検討していく。

（3）大豆

団地化及び額縁明きょ等による排水改善に取り組みながら、担い手を中心に生産性の向上と栽培面積の維持を図る。

（4）高収益作物（園芸作物等）

地域振興作物

白ねぎ、ブロッコリーを地域振興作物とし、団地化及び高畝栽培等による排水対策に取り組みながら、生産性の向上を図る。

また、担い手農家による作付を推進し、集積による生産コストの削減及び所得の向上を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度 の作付面積 (ha)	当年度 の作付予定面積 (ha)	2020 年度 の目標作付面積 (ha)
主食用米	66.0	63.9	59.7
飼料用米	4.6	7.2	21.0
大豆	8.1	9.4	15.0
その他地域振興作物	7.4	8.5	9.5
白ねぎ	1.1	1.3	2.5
ブロッコリー	6.3	7.2	7.0

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度 (実績)	目標値
1-1	大豆	排水対策助成	排水対策面積 (実施率)	(2018 年度) 12.4ha (80%)	(2020 年度) 23.0ha (94%)
1-2	白ねぎ				
1-3	ブロッコリー				
1-4					
2	大豆 白ねぎ ブロッコリー 飼料用米	担い手集積助成	作付面積 (担い手集積率)	(2018 年度) 13.6ha (67%)	(2020 年度) 35.0ha (77%)
3	白ねぎ ブロッコリー	地域振興作物作付助成	地域振興作物作付面積	(2018 年度) 6.9ha	(2020 年度) 9.5ha

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり